

しおとん



仁淀川町
広報

1

2007年
月号 No.18



今年もがんばるぞ！（長者保育所）

新

謹

年

賀

主な 内容

- 2～3.....新春特集・自主防災で深まる
地域の絆（森山地区）
- 4.....沢渡婦人会町内視察
- 5.....土佐二十四万石博で町をアピール
- 7.....4月から町営バス料金一律200円に
- 10・11.....第1回「中学生の主張」発表会
- 16.....平成19年度保育所入所のご案内

自主防災で深まる地域の絆 〈森山地区〉

茶霧湖（大渡ダム湖）を見下ろす森山地区は、地すべりの危険性に怯えていました。そんな中、平成十六年に台風の影響により集落裏山が崩壊、住民は避難を余儀なくされました。これを機に、森山地区は自主防災に本格的に取り組むことになりました。今回はその取組の一端をご紹介します。

敬老会出し物は天下一品

森山地区は国道33号沿いに位置しダム湖を見下ろす約五十世帯、百人余りが暮らす集落です。

森山地区は元々地域の結束力が強く、元気な若者が多い地域でした。毎年行われる敬老会での出し物は地区の若者が計画し、練習を重ね、見る者の期待を裏切らない天下一品の代物です。

地すべりの不安

その一方、同地区は地すべりの不安を抱えており、地す



毎年熱演が繰り広げられる敬老会

べり調査なども行われてきましたが、住民は大雨の度に災害に怯えていました。

避難の連続・敬老会中止

そんな中、平成十六年八月、台風十六号の豪雨により集落上部斜面で大規模な崩壊が発生しました。

幸いにも崩壊した土砂は集落上部の農道でくい止められ、民家への直接的な影響はなかったものの、崩壊拡大の恐れがあり、住民は町の勧告を受け中央公民館などへ避難したのでした。その後も災害復旧工事が完成するまで大雨の度、自主避難を余儀なくされた住民も数多くいました。

このような状況で、毎年みんなが楽しみにしている敬老会もこの年は中止せざるを得ませんでした。

自主防災組織立ち上げ

この災害による避難を機に地区では防災意識が一気に高まり、避難時態勢や危険箇所

の把握などについて話し合いが持たれるようになり、平成十八年には森山地区自主防災組織が正式に設立されました。防災地図はみんなの手で

森山地区では昨年、自主防災組織が中心となり様々な災害を想定し、防災学習会、起震車体験、避難訓練などを実施してきました。

中でも力を注いだのが森山地区防災地図の作成でした。災害に備えるためには、まず自分たちで身の回りの危険箇所を把握しておくことが肝心と、地区行事を行うときにはいつもそうであるように、老若男女みんなで防災地図の作成に取り組み、ボランティアの専門家や県の職員の協力も得、地図が完成しました。

自主防災から地域づくり

このように様々な活動を実



みんなの力で
完成した防災地図

施して行く中で、大きな支えとなったのが地区の女性の力でした。訓練等への積極的な参加はもちろん、昨年十二月には「森山女性なんでもクラブ」を設立、健康で明るく楽しい地区づくりのために立ち上がりました。

区長として様々な取組に携わってきた高橋弘一さんは、「女性グループまでできたん

防災学習会（昨年12月）
文字通り老若男女が参加。学習会終了後
芋煮会も行われました



危険箇所現地調査（昨年8月）
ボランティアで協力いただいた専門家の
説明に聞き入る参加者



茶霧湖を見下ろす森山集落

平成16年8月台風の影響で集落上部（写真丸印）が崩壊、住民は避難を余儀なくされ、これを機に住民の防災意識が高まりました
（平成16年9月撮影）



私らあにまかしちょき！

昨年9月に行われた防災訓練には、いざという時のために女性や子ども達も積極的に参加しました



現地調査後集会所で防災地図づくり

現地調査で確認された変状を地図に書き込みました。年配の方からは昔の崩壊の話や湧水位置などの情報も提供してもらいました
（昨年8月・森山集会所）

ですよ」と誇らしげに語り、更に「地区でできることを少しづつ進めて行きたい」と抱負を述べていました。
深まった絆
何をするにしても子どもからお年寄りまで一丸となつて取り組む森山地区。自主防災の取組でその絆が一層深まったのは間違いないと言えるでしょう。

わが町をもっと知ろう！

沢渡婦人会町内視察

11月9日、沢渡婦人会（谷脇秀美代表、12人）の11人が町内を視察しました。町村合併から1年以上たち、自分たちの住んでいる地域以外のことをもっと知りたいと、婦人会が計画したものです。視察には仁淀総合支所長と沢渡地域担当職員が同行しました。

視察の様子や感想を、谷脇代表からお寄せいただきました。

トマト栽培を見学（ツボイ）



私たちは、旧仁淀村内のことも隅々までは知らない別枝下地区沢渡婦人会です。別枝下地区は四十二戸、八十人足らずの集落で、主に茶、シキミ、ゼンマイを作っています。五月に行われた地域懇談会のとき、町村合併により面積は高知市と同等になったという話をお聞きし、ぜひ吾川・池川地区を視察してみたいとお願していました。このたび紅葉には少し早い秋晴れの日、念願の視察がかないました。

まず吾川の宗津へ行き、向かい側の桜、鹿森を見て、そ

の後、池川の野菜のカット工場を見学、坂本の茶畑を通ってツボイへ、空まで上がったようでした。山また山で見渡す限り仁淀川町とのことでした。

続いて曲がりくねった川沿いの細い道を通り、紅葉を見ながら安居溪谷へ。そこで昼食を取り、地元の方々の手作りのおすしやおもちをお土産に買い込みました。

午後は高齢者向町営住宅「月美荘」を視察。日当たりのよい所で、近くの住民との交流もあつて、毎日楽しく過ごしておられる住人の様子がかがえました。

次に池川総合支所へ行きました。仁淀総合支所もそうですが、職員が少なくなつて寂しそうに思いました。

再び吾川に戻り、岩戸の土佐和紙作りをしている「尾崎孝次郎製紙所」を見学しました。

カジ、ミツマタを自家で作るなど原料にこだわり、四代目の尾崎あかりさんがおじいさんやお母さんと紙すきをし、天日乾燥はお父さんがするという、すべて家族の手作

尾崎孝次郎製紙所（岩戸）



庁で町長、助役、各課長が待っていてくださり、お忙しい中、貴重な懇談の場まで持っていただきありがとうございます。

余りにも広くて、ほんの少しの地域しか視察できなかったのですが、支所長さんほか職員の方々、お世話になりました。

また、このような機会があることを期待しています。



役場本庁議場で町長らと懇談

土佐二十四万石博で

仁淀山町の魅力をアピール

高知城周辺で開催されている「土佐二十四万石博」で、十一月二十七日から十二月三日までの一週間、町のPRや特産品の販売を行いました。

期間中は、会場に訪れた県内外からの大勢の観光客に町特産のお茶を振る舞ったり、いりもちや手打ちそばの実演販売を行ったり、木工品など特産品の販売を行ったりと、元気な呼び込みの声の中、多くの観光客で賑わっていました。

また十二月二日には椿山太鼓踊り（町指定無形文化財）、三日には玄蕃太鼓振興会による和太鼓の演奏が特設ステージで披露され、会場に詰めかけた観客から喝采を浴びていました。



玄蕃太鼓



椿山太鼓踊り

土佐二十四万石博

（主催・大河ドラマ「功名ヶ辻」高知県推進協議会）

NHKの大河ドラマ「功名ヶ辻」の全国放送に合わせて、来県客を増やし観光を中心とした地域振興につなげるため、高知城周辺で平成18年4月1日から平成19年1月8日の間、いろいろな催しを開催しています。



木工品の販売

戸立の太鼓踊り



太鼓の音が静かな山あいには響いていました

古式ゆかしく…

11月19日、戸立の大山大神宮で古式ゆかしい太鼓踊りが行われました。

大山大神宮は、戸立を開いた元祖である佃次郎兵衛の霊を祭っており、古くから次郎兵衛の墓前祭である旧暦の9月29日に踊りが奉納されています。

この日はあいにくの雨模様でしたが、シートを張って雨よけとし、踊りを奉納することができました。その後は集落の人が持ち寄った手作りの料理を食べたり、お供えの酒を飲んだり、にぎやかな墓前祭となりました。また民族文化を研究している高知大学教養学部の教授や学生らも見学に訪れ、興味深そうに見入っていました。

人口の減少、高齢化とともに、踊りができる人も減り、今はこの日踊った佃昇さん、佃直賢さん、佃福松さんの3人だけとなっています。佃さんらは「後継者がおらんの寂しい」と話していました。